

# HTEC

Honda Technical College kansai



## 学校法人ホンダ学園 ホンダ テクニカル カレッジ 関西

(旧校名 ホンダ関西自動車整備専門学校)  
〒589-0012 大阪府大阪狭山市東くみの木2丁目1937番地の1  
TEL:072-366-9011 FAX:072-360-2230

発行責任者  
校長 六角屋 雷太

ホームページ・ケータイサイト  
[http://www.hondacollege.ac.jp/honda\\_w/](http://www.hondacollege.ac.jp/honda_w/)

QRコード対応  
ケータイで  
簡単アクセス!



# 新年のご挨拶

A HAPPY NEW YEAR 2007



校長  
六角屋 雷太

新年明けましておめでとうございます。

昨年、世の中では高校の教科未履修問題やいじめ問題に端を発した事件等、教育の有り方が問われた1年でした。自動車業界では、車の販売台数が573万台でピーク時の3/4になり、又軽自動車は202万台で35%を占めるという大きな変化があった年でもありました。

一方本校では、4月に新学科「自動車研究開発科」が22名の学生でスタートしました。同時に学科構成に見合った学名「ホンダテクニカルカレッジ関西」へ変更も行い、ホンダ学園創立30周年にあたる事からイベントも開催しました。本年も本校は、人材育成に真摯な態度で臨み、「社会に役立つ人材育成」に向けて様々なチャレンジを続けます。

1つ目は、本年4月より、「**二級自動車**

整備研究科」4年課程がスタートします。昨年までの2年課程では出来なかった事を、4年間の貫いた教育で新たなカリキュラムの基、高い知識と技術力に加え、時代に敏感な創造性あふれる考動力を養う教育を行います。

2つ目は、「自動車研究開発科」の学生自らがフォーミュラカー(FSAE)を造り、9月に開催される「全日本学生フォーミュラ大会」に初参戦し実力を試みます。11月には外部の方も実力を翌年アメリカで開催される「フォーミュラ大会」への学内選考会も行います。学校の教育、学生の実力が試されるイベントです。

3つ目は、今年より鈴鹿8時間耐久レースへ「単独参戦」します。昨年までは、プロのレースチームと共同で、学生がメカニックとして参加してました。今年はレースマネージメントを含め全て顧問の先生と学生で行います。大きなステップアップでありチャレンジでもあります。教職員一同「社会に役立つ人材」の輩出を目指し、常に原点に立ち戻り考え、迅速に対応していきたいと思えます。

## トップトーク「HondaのDNA」を語る



本田技研工業(株) 専務取締役  
(株)本田技術研究所 代表取締役社長  
学校法人ホンダ学園 理事長  
白石 基厚

本校では年に一度、本田技研工業(株)より講師をお招きし、講演をして頂いております。今年度は、1月1日に本田技研工業(株)専務取締役である白石基厚さんに「HondaのDNA」についてお話して頂きました。

### HondaのDNAに刻まれたもの

Hondaは常に挑戦してきました。マン島の1リッターやF1などに代表される世界への挑戦。排出ガスの極小、燃料電池車、ASIMOやHondaJetなどに代表される新たな技術への挑戦。そしてオデッセイなどに代表される新価値創造への挑戦です。これらの挑戦を通して言えると思いますが、HondaのDNAに刻まれている

### HondaのDNAの本質は「絶対価値の追求」

HondaのDNAの本質は、「絶対価値の追求」を求めるといえます。これは、本田宗一郎さんと藤沢武夫さんという人達から受け継いできたものです。「絶対価値の追求」というのは、結果が他より良ければ良いという相対価値ではなく、世の為人の為に何が善いのかを追求するという事です。会社というものは、自分のやりたいことを遂行する場所であると思えますが、これが「絶対価値の追求」に結びついたら、社会に新しい価値を提供することが出来るのだと思えます。

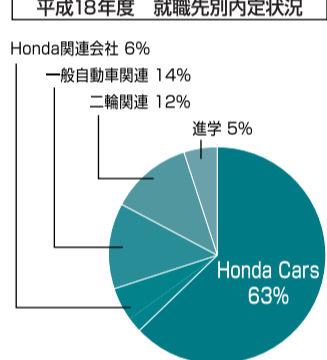
### 学生の皆さんへ

Hondaのグローバルブランドスローガンは、「The Power of Dreams」です。私達人人が抱いている「こんなものがあたらしいなあ」「これができたら

## 就職活動状況

就職内定100%達成

昨年の1月から始まった就職活動でしたが、採用試験の早期化と各企業様のご支援による採用人数の増加で、前年より良いペースで就職状況が推移し、過去にない実績で1月21日に全員の内定を頂きました。今後共、学生の就職活動につきまして、ご理解とご支援を、宜しくお願い致します。



## 1年生の就職活動スタート

いよいよ1年生の就職活動がスタートし、12月15日(金)の賛助企業セミナーでは、前年度と同様の60社の企業様にご参加頂き、学生305名が希望企業様からの会社説明を伺いました。今後は、1月中旬の「社会人研修」(会社訪問)一般企業様による「企業セミナー」などを通じて、社会人意識の向上を図りながら、厳しい就職活動に向かっていきます。

## 学生企業セミナー

得るものが多くありました



笑顔絶えず活発に質問する(写真右から2番目 北野さん)

私は「良い印象を持ってもらおう!」という気持ちと、相手の会社について「1つでも多く知ろう!」という気持ちで企業セミナーに挑みました。会話の際には、相手の目を見て、笑顔を作るように心がけて話しました。企業の方々、私の質問について丁寧に答えて下さり、私の抱いていた就職への不安が安らいでいきました。振り返ってみると、会話の際に言葉が上手く出てこなかったりした事など、今後の注意点や課題も見えましたが、企業を知ることができ、得るものが多いセミナーになりました。(自動車整備科 1年5組 北野千景)

## 卒業生企業満足度調査

年々満足度が向上

この「企業満足度調査」は、卒業生が入社6ヶ月を経過した時点での活躍状況を調査し、今後の教育内容に反映させる目的で毎年11月に実施しています。今回は、06年3月に卒業した224名の結果内容です。(回収率67%)  
本校では、育成目標を掲げ、人材育成に取り組んでいます。前年度の課題から次の5項目を重点施策として教育改善に取り組みました。  
1、コミュニケーション能力の向上  
2、課題対応能力  
3、点検、車検の実施能力の向上  
4、Hondaのサービス技術力向上  
5、HondaのIT技術活用力向上

全体に向上は図れましたが、5項目目のIT技術力(OA操作力)がまだまだ低く、今後の課題として積極的に取り組んでいきます。今後企業様と本校の更なる連携強化を図り、学生の更なる向上を目指していきます。

## 鈴鹿安全運転講習

安全運転の大切さを学ぶ



四輪の制動運転

鈴鹿安全運転講習に参加して二輪も四輪も、運転を1つ間違えれば命を落とすことがよく分りました。急制動では、初めてハンドルをフルロックさせて、凄く怖い思いをしました。今は、講習だから安全ですが、これが市街地や高速道路なら死んでいたいと思います。

四輪のロールブレイングでは、安全対策の必要性をお客様にアドバイスする大切さを知りました。販売会社では、このようなことが行われているのだと思うと、私はしっかり説明できるのかと不安になりました。今回の講習を通して、安全運転の大切さを多く学びました。就職してからも、お客様に安全に運転してもらえよう、しっかりとアドバイスが出来る整備士になりたいと思えました。(自動車整備科 1年3組 平松沙記)

## 技術セミナー

軽自動車NESTの開発



講師は(株)本田技術研究所 四輪開発センター 五十嵐剛夫様

車の開発では、お客様がどう思っているかという事が重要だと知り、女性に可愛いデザインの方が売れる、お客様もいるので、ゼストはその中間層をターゲットに作られているそうです。開発では固定概念にとらわれず、しっかりと統計から考えていかなければならないと分かりました。(自動車整備科 1年2組 加藤敏久)

## 一級自動車整備研究科

定員を60名に増員

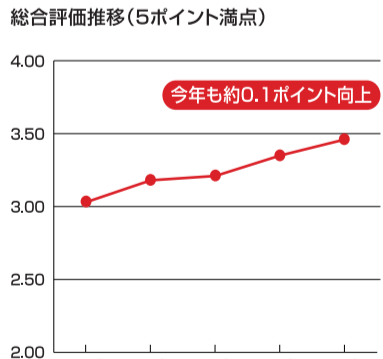
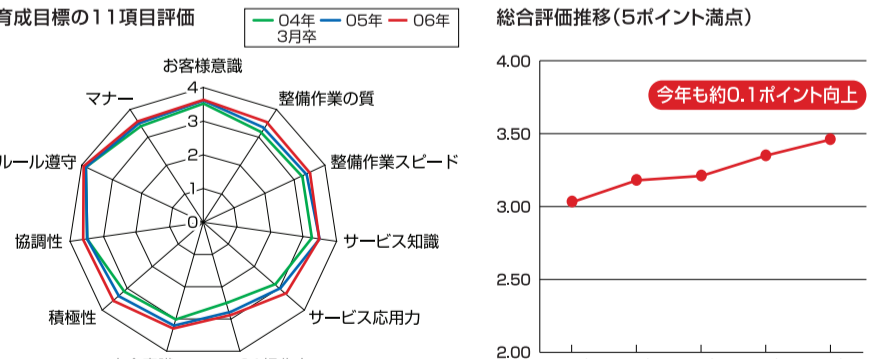
平成19年度生の一級自動車整備研究科への応募状況は、二級整備士資格取得への関心が高まったこともあり、募集定員を大幅に上回る応募を頂きました。志高く目標にチャレンジする意欲ある受験者により、出来る限り受け取るべく、平成19年度生より、二級自動車整備研究科の定員40名を60名に増員しました。併せて、自動車整備科は、定員280名を260名に減員しました。

## 新任のあいさつ

12月1日 付けで着任しました吉田修一郎です。私はHTECを卒業し、サービスセンターで整備経験後、サービスマニュアルの編集という仕事を経て、約5年ぶりに戻ってまいりました。この間の色々な経験を学生の皆さんに少しでも伝えていけたらと思っております。皆さんの若さ、元気に負けないように、私も若さ、元気で何事にもチャレンジしていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

1月1日付 けで、四輪開発センター 榎木(HGT)から参りました。入社以来20余年、完成車エンジンテスト一筋にやってきました。

学生の皆さんに教える事も、教えてもらう事も、たくさんあると思えますが、共に考え、共に学び、楽しく学習していきたいと思っております。



# 広大なアメリカを体感 海外研修旅行 2006 海外研修旅行レポート



自動車整備科  
2年4組  
馬渡 烈

## 日・米ディーラーの違い



アメリカのディーラーの前にて

アメリカのディーラーの前にて、訪問して、「とても広い」「土地がある」「面積が日本とは違う」と驚きました。日本では真似の出来ない出来事がありました。

在庫車の数(約700台)、オイルやフィルターを交換するだけのピットもあり、広さを活かした合理的な作業が行われていました。  
更に驚かされたのは、お客様が車を購入すると、その日にナンバーなしで乗って帰れるという事です。でも、どうやって車のオプションに対応しているのだろうかと考えていたら、あらかじめオプション有りの車と無しの車が在庫であるそうです。さすがアメリカ!



アメリカンホンダでのガイダンス



自動車整備科  
2年3組  
堺 雄太

## クルマ文化の違い

今回の研修旅行が、初めての海外だったので不安と期待でいっぱいでした。初日から色々な事に驚かされましたが、一番印象的だったのは、車文化の違いでした。なんとこれもアメリカの車は全てが大きくて、アコードは小型車に分類されるくらいです。乗用車も大きくて、トラックやバスなどは日本ではお目にかかれないほど大きなものが多くありました。また、アメリカでは車検という制度がないためか、古い車を修理しながら乗っている人がたくさんいて、日本人よりも車を大切にしている人など実感しました。日本人も、車を大切に扱い、付き合っている、付きたいと思っていました。



バギーで砂漠を疾走



自動車整備科  
2年5組  
西井 昌基

## ユニークなクルマ社会

アメリカに着いて一番驚いた事は、車の大きさに驚きました。アメリカの道はとても広く一般道でも2車線はあり、フリーウェイになると4車線が普通で、最高はなんと8車線もあります。また、直線が長く、車線も広く、車の排気量も大きくて軽自動車などは使い物になりません。種類もセダン、ワゴン、ピックアップトラックなど多く、特にピックアップトラックはアメリカでの流行らしいです。フリーウェイはカーブが少なく、直線が長いので、2人以上で乗っている車だけが走れるレーンで、車で発展してきたロサンゼルスならではの渋滞を解消するアイデアです。また、ハイブリット車も7万台限定でカーブを許されています。日本とは考え方が違い、とてもユニークな発想だと思いました。



ディズニーランドにて

# 2007年「鈴鹿8耐」単独参戦へのチャレンジ

本校では2001年より、学生の人材育成を目的に、トップライダーベータの実績を持つ「D.D. BOYS RACING」二輪整備同好会とジョイントチームを結成し、世界耐久選手権シリーズ「コカ・コーラ鈴鹿8時間耐久ロードレース」へ学生がチームメイトとして参戦を始めてまいりました。  
趣旨に賛同くださった皆様方の力強いご支援のおかげで、この6年間参戦を続けることができ、多くの学生が学園を巣立ち二輪車業界で活躍しております。  
2007年度の参戦にあたっては、幾度となく検討を重ねた結果、「D.D. BOYS RACING」に頼った活動から脱皮し、「チャレンジ精神に則り新たなチームとして独立し、「ホンダテクニカルレジン」として単独参戦いたします。  
耐久世界選手権の国際レースに本校の学生が参戦し、学生自身の資質や能力を発揮させ、一回も二回も大きく育つよう運営してまいります。  
また、修練の場として地方選手権にも参戦してまいりますので、今後とも皆様方の絶大なご支援とご協力をお願いいたします。



鈴鹿8時間耐久ロードレース参戦の様子

**主な戦歴**

1995年	鈴鹿選手権NK4クラス シリーズチャンピオン
1998年	鈴鹿NK4 4時間耐久ロードレース 優勝
1999年	鈴鹿NK4 4時間耐久ロードレース 優勝
2001年	全日本選手権 ST600クラス シリーズチャンピオン15位
2001年	鈴鹿8時間耐久ロードレース出場 総合45位
2002年	鈴鹿8時間耐久ロードレース出場 総合41位 (JSBクラス3位)

**主な戦歴**

1994年	ロードレースデビュー
1999年	国際ライセンス昇格 全日本選手権 GP250クラス 参戦
2001年	岡山国際3時間耐久ロードレース 100マイル耐久ロードレース 2位
2002年	鈴鹿8時間耐久ロードレース出場 総合41位 (JSBクラス3位)
2003年	岡山国際3時間耐久ロードレース 優勝
2004年	鈴鹿8時間耐久ロードレース出場 総合36位 (SSPクラス2位)



第1ライダー  
橋本 充巧

## 学生との息もぴったり

第1ライダーとして、2002年度に岡山国際サーキットオープン3時間耐久オートバイレース等で学生と参戦経験のある橋本充巧選手が走りまわります。その経験は4時間耐久ロードレース等でも輝かしい戦績を持ち、2002年には「ホンダドリーム賞」から鈴鹿8時間耐久ロードレースに参戦し、総合41位 (JSBクラス3位) 完走の実績もあるライダーです。



第2ライダー  
白上 貴紀

## 先生で現役ライダー

第2ライダーとして、本校の9期生で、2輪整備同好会顧問でもある白上貴紀先生が走ります。学生達とのジョイントも2001年に経験があり、トレーニングコースである岡山国際サーキットオープン3時間耐久オートバイレース等、耐久レースに参戦経験が豊富で好成績も収めています。先生として先輩として、走ることによって学生達に大きな夢を与えます。

# People Close Up!

「キャンパスオフロード 西日本大会」で、スプリント優勝、3時間耐久2位という輝かしい戦績を残したオフロード同好会の長澤君をクローズアップ!



自動車ビジネス科  
2年1組  
長澤 徹

◆スプリント優勝、3時間耐久2位という結果を残す事ができた感想は?  
正直、優勝できたことに驚きました。今大会は2年間の活動の集大成なので、結果が残せて本当に嬉しいです。  
◆今大会に向けて取り組んだことは?  
前大会の結果は、スプリント4位、3時間耐久3位と、納得のいく結果が残せなかったため、夏休み明け頃から今回の大会に照準を合わせて、今月1回の走行会を月2回に増やして練習してきました。  
◆今大会を通して得たことは?  
今大会への参加までは、色々な問題が持ち上がり、同好会として成長しないといけない状況に直面しました。しかし、その度に同好会の皆で頭を悩ませて解決してきました。この経験を通して、問題にぶち当たった時、自分はどうすれば良いかを考えて行動する力や、目標に合わせた計画を立て、それを実行する力などが付き、自分自身が大きく成長出来たと思います。  
◆後輩にメッセージをお願いします。  
皆さんの感動を味わう事が出来るオフロード同好会を、今以上に良くするように頑張ってもらいたいと思います。  
◆最後にお願いします。  
スプリント入賞が、自分の目標だったので、優勝という驚きの結果で学園生活最後のレースを締めくくって本当に良かったです。



優勝を目指して全力で走る長澤君

る力や、目標に合わせた計画を立て、それを実行する力などが付き、自分自身が大きく成長出来たと思います。  
◆後輩にメッセージをお願いします。  
皆さんの感動を味わう事が出来るオフロード同好会を、今以上に良くするように頑張ってもらいたいと思います。  
◆最後にお願いします。  
スプリント入賞が、自分の目標だったので、優勝という驚きの結果で学園生活最後のレースを締めくくって本当に良かったです。



末松君(右)と坂田君(右上から2番目)

## New Zealand

### 研修を終えて

「研修を終えて」  
ある時「お前らはやらない理由を見つけてるの上手いな」と言われました。それから「何事にも挑戦し、何事にも楽しむ方法を見つけるのが、ニュージーランドのライフスタイルだ」と言われ、この二つを心において何事にも挑戦してきました。  
その結果、自分は悔いの無い「ニュージーランド」生活を送りました。今後はこの経験を活かして、自分の可能性を疑わずにチャレンジしていきます。  
◆最後に  
もちろん、たまたまでござって来た格好いい事は言えませんが、皆さんの方々に、皆さんから多くの事を学び、支えをもらったからこその自分があります。礼儀や決まり文句ではなく、心の底から思えるようになったのも、この研修のおかげです。本当に、本当にありがとうございました。  
（自動車整備科 2年1組 末松航）



坂田君とお世話になった職場の皆様(右から3番目)

# これからのスケジュール

1月	2月	3月	4月
●Hondaの技術セミナー「J-OBD」(17日)	●オープンキャンパス(体験授業)(11日)	●卒業式(14日)	●入学式(6日)
●JAMCA全国統一模擬試験(17日)	●危険物取扱者試験(12日)	●卒業式(16日)	●2年生始業式(9日)
	●第6回 入学選考(23日)	●自動車整備士試験(登録試験)(25日)	●校外オリエンテーション(10・11日)
	●Hondaサービスエンジニア認定試験	●オープンキャンパス(体験授業)(28・29日)	

**ランニング同好会**  
「ジャズをBGMに走る」  
1月22日に「和歌浦ベイマラソンwithジャズ」という大会に出場しました。ジャズの生演奏をBGMに走るので、楽しく余裕はありませんでした。次(自動車整備科 2年1組 竹村直人)

**学園祭売上金寄付**  
11万8350円を寄付  
学園祭の売上金を寄付する為に、社会福祉法人大阪狭山市社会福祉協議会を訪ねました。今回の寄付金をバリアフリー化に活用し、より安心して使える施設づくりに役立ててほしいと思います。(学園祭実行委員長 藤本雅裕)

**F1デモンストレーション**  
佐野工フェスタに特別参加  
大阪府泉佐野市にある佐野工業高等学校で開催された「佐野工フェスタ」に本校が特別参加し、F1エンジン始動のデモンストレーションを行いました。佐野工業高校の皆さんや「佐野工フェスタ」に参加された中学生の皆さんが、これを機会により一層ものづくりに興味を持ち、車好きになってくれたものと思います。

**編集後記**  
明けましておめでとうございます。2007年も「二級自動車整備研究科」4年制のスタート、「自動車研究開発科」のフューチャー大会へ「初参戦 鈴鹿8時間耐久ロードレース」への「単独参戦」など、本校のさまざまなチャレンジをH-TEC TIMESやホームページを通してお伝えしていきたいと思っております。

H-TEC TIMES編集委員